

令和7年度 東京都内湾水生生物調査 6月成魚調査 速報

●実施状況

令和7年6月12日に成魚調査を実施した。天気は概ね曇りで、気温は21.5～24.9℃であった。調査地点の風は南から南西の風で、風速は1.1～2.8mであった。調査当日は大潮で、干潮は11時33分、満潮は18時38分であった(気象庁のデータ)。赤潮はSt.10、St.22、St.25において発生している状況であった。種別では、ハタテヌメリは3地点、テンジクダイおよびマコガレイは2地点で確認された。魚以外では、シャコ、スナヒトデが複数の地点で確認された。

項目 / 地点名	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時間	9:46～9:56		10:55～11:05		11:51～12:25		12:36～12:52	
水深(m)	25.4		11.8		13.2		7.6	
天候	曇り		曇り		曇り		曇り	
気温(℃)	24.9		23.9		21.5		22.7	
風向/風速(m/sec)	ESE/1.8		SE/2.3		S/1.1		S/2.8	
波浪(m)	0.2		0.2		0.2		0.2	
透明度(m)	2.3		1.0		1.1		1.1	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(℃)	21.8	17.6	23.5	19.3	22.3	18.3	22.9	20.7
塩分(ー)	28.5	33.5	21.2	25.0	27.1	31.7	21.2	28.8
DO(mg/L)	8.8	2.7	12.9	3.4	9.9	0.0	11.7	4.1
DO飽和度(%)	119.1	35.1	210.5	43.9	134.4	0.0	163.7	55.7
pH(ー)	8.3	7.8	8.3	7.9	8.4	7.3	8.3	8.1
水の臭気	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
備考	—		—		—		—	

観測層:上層(0m)、下層(海底面上1m)

●主な出現種など(速報なので種名は未確定です)

主な出現種など	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	ハタテヌメリ(c) マコガレイ(+) テンジクダイ(c)	ハタテヌメリ(+) テンジクダイ(+) コノシロ(r)	ハタテヌメリ(r)	スズキ(+) マコガレイ(r) シログチ(r)
魚類以外 (目立った種)	スナヒトデ(m) シャコ(c) ケブカエソウガニ(+)	スナヒトデ(+) トリガイ(+) シャコ(r)	シャコ(r) イッカクモガニ(c)	ホンビノスガイ(r)
上記以外	メイタガレイ、 クルマエビが確認された。	ホウボウ科、 スルメイカ科が確認された。	カタクチイワシ、 ゴカイ科が確認された。	ギマ、ホウボウ科、 マダコ、スルメイカ科が確認された。

*)表中の()内の記号は大まかな個体数を表す。

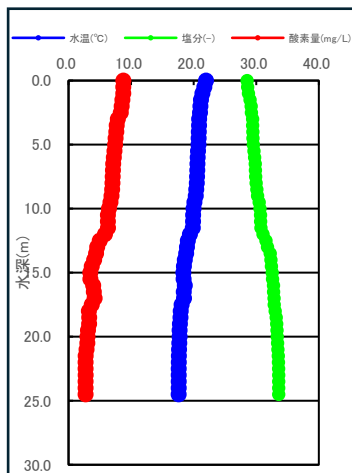
G:1000個体以上、m:100～1000個体未満、c:20～100個体未満、+:5～20個体未満、r:5個体未満

調査地点:St.35

調査地点位置



水質状況



地点状況



採取試料



東京湾では普通に見られるカレイの一種。成魚は全長 45 cm 程まで成長する。水深 100m より浅い砂泥地に生息し、ゴカイなどを食べる。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛り:1mm



東京湾全域に出現し、特に湾奥に多い。砂泥底に生息して甲殻類等を食べる。繁殖期は7月から10月。親魚が卵を口の中にくわえて、ふ化するまで保護する習性を持つ。



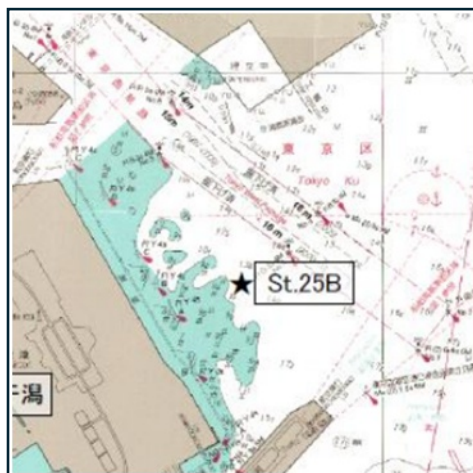
体長 20cm ほどになる。水深 20 ~ 120m の砂泥底に生息し、多毛類等を食べる。名前の由来は、眼の間に棘があり、触ると痛い（目痛蝶）とされる（諸説あり）。



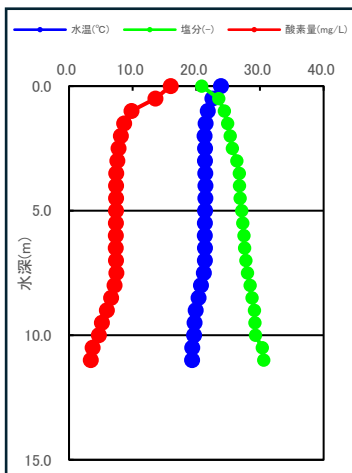
全長 13 cm ほど。オスの前部背びれにある軟条（軟らかいスジ）は糸状に長く伸びる。夏は湾奥のやや深い場所に生息し、秋から春にかけては湾奥にも分布するが、これには夏の貧酸素水塊発生が影響していると考えられている。

調査地点: St.25

調査地点位置



水質状況



地点状況



西側には東京国際空港が見える。

採取試料



採取試料
(全量)



ハウボウ科

砂泥底に生息し、胸鰭の一部を指状に動かして餌生物を探す。体色は赤色で、胸鰭内面に種独特の色斑を持つものが多い。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛り: 1mm



ハタタテヌメリ

全長 13 cm ほど。オスの前部背びれにある軟条 (軟らかいスジ) は糸状に長く伸びる。夏は湾中央のやや深い場所に生息し、秋から春にかけては湾奥にも分布するが、これには夏の貧酸素水塊発生が影響していると考えられている。



クロダイ

東京湾全域に出現し、河川の下流域や運河等の汽水域でも普通にみられる。体色は銀白色であるが、タイ科の中では黒っぽい。雑食性で小型甲殻類やゴカイ類、貝類、藻類などを食べる。雄性先熟 (ゆうせいせんじゅく: オスとして性成熟した後にメスに性転換する) である。

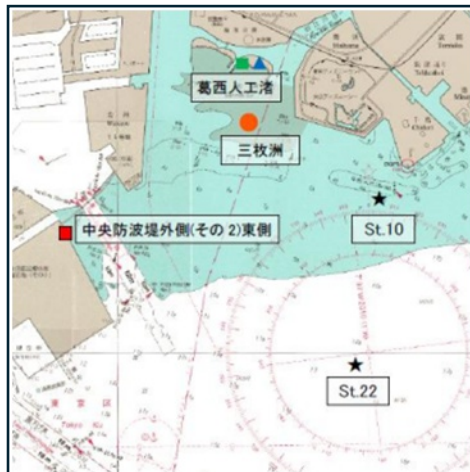


トリガイ

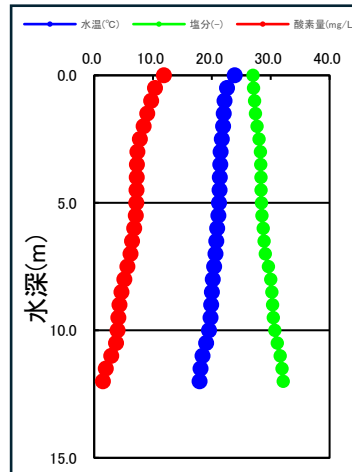
ほぼ球形で、殻は薄く脆い。長い足が鳥の嘴に見えることが名前の由来。内湾の砂泥底に生息し、湾奥では夏季の貧酸素水塊の発生により、ほとんどが死亡する。貧酸素水塊解消後に出現した稚貝は、翌年春に 6cm ほどまで成長する。

調査地点: St.22

調査地点位置



水質状況

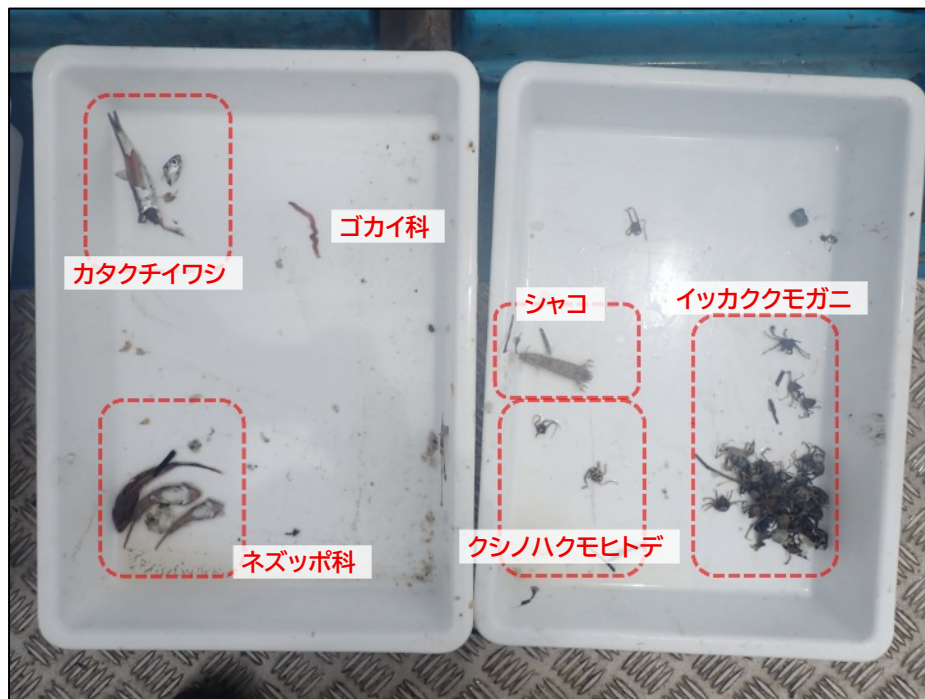


地点状況



北西側には東京ゲートブリッジが見える。

採取試料



採取試料
(全量)



東京湾の表層域では最も個体数の多い魚種である。口を開けると下顎だけが垂れ下がることが名前の由来。網の揚げ降ろし時に入網した。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛り:1mm



甲幅 2cm 程になる。甲らは先端の尖った三角形で、歩脚が細長い。外来種で、有機汚染の進んだ都市圏の港湾や内湾の砂泥底に多い。貧酸素に比較的強く、通年で繁殖する。



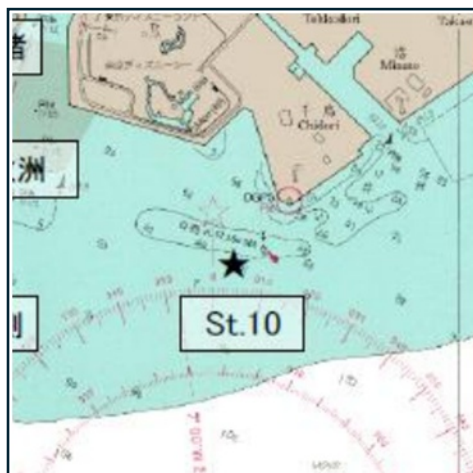
河口の汽水域や内湾の砂泥底に、大小 1 対の口を持つ U 字形の巣穴を掘って生活する。東京湾では水深 15~30m に生息し、他の水生動物を強大な捕脚を用い捕食する。



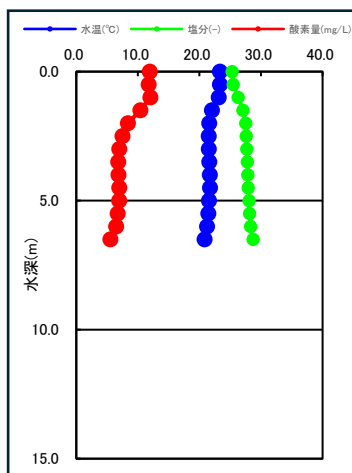
名前にヒトデとつく棘皮動物であるが、スナヒトデ等のいわゆる星型をしたヒトデ（海星綱）とは違う、蛇尾綱の仲間。砂泥底に生息し、クモのような動き方をする。貧酸素に強い耐性を持つ。

調査地点: St.10

調査地点位置



水質状況

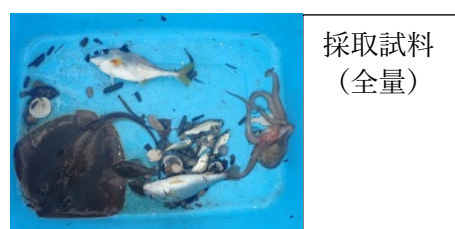
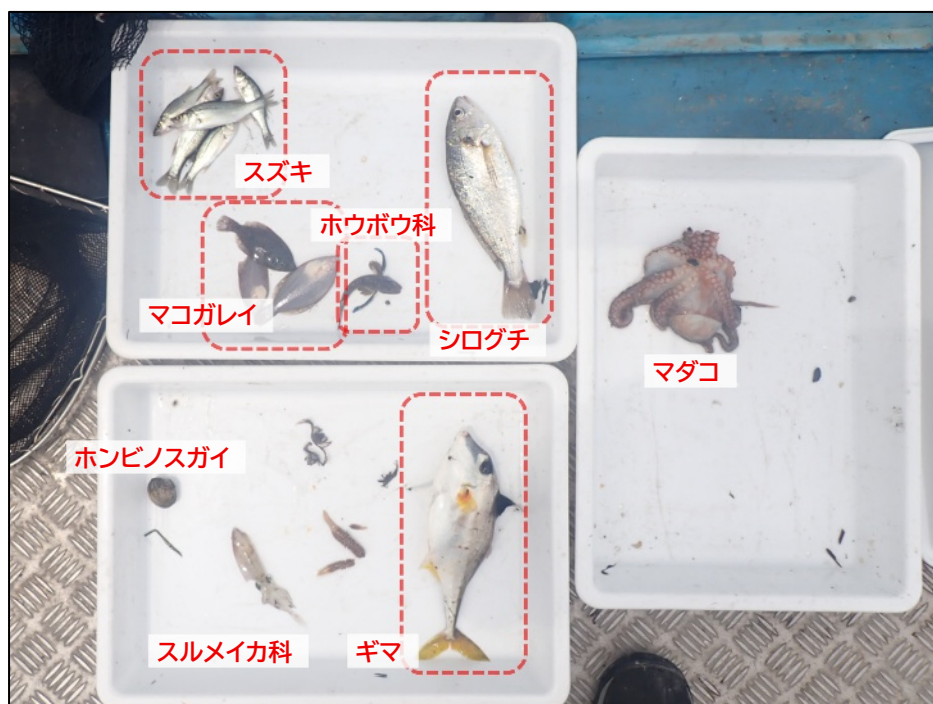


地点状況



北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料

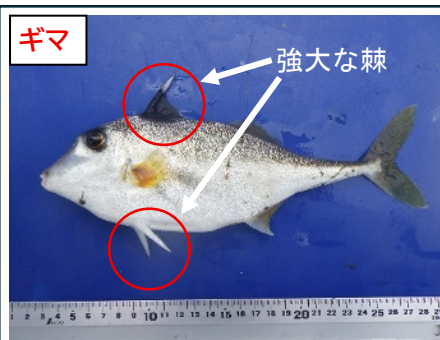


東京湾で最も普通にみられるエイ。目の後ろにある噴水孔で呼吸をする。尾部のノコギリ状の棘（毒針）は刺されると危険。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛り: 1mm



体は銀白色で内湾の砂泥上にすむ。釣りや底引き網で漁獲される。水面に上げると浮袋を使ってグーとなく姿がグチを言うように見えることから「グチ」と名がついたといわれている。



沿岸域や河口域の砂地や泥地に群れをつくり生息する。横から見るとカワハギに似ているが、背鰭と腹鰭は強大な 1 棘のみであるところが特徴となる。



眼の周りに数個の突起がある。日中は浅海底の岩礁や障害物の陰に隠れ、夜間に摂餌のために行動する。食用として利用される。